

実践研究報告書

三浦市立上宮田小学校

校長 小泉 修

テーマ 『効果的な健康教育を目指して』

1 健康教育における学校の現状と課題

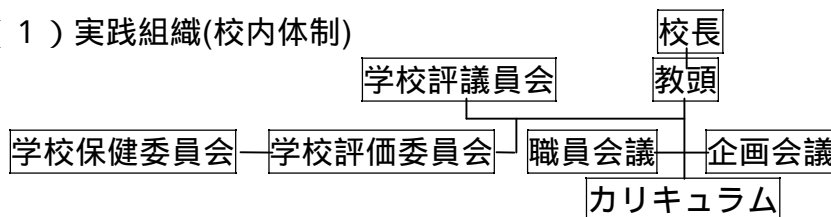
心の教育を柱とする骨太の実践が求められている中、児童が将来、真の自立を獲得することに繋げるため、学習を充実させ、体験の機会を数多く積ませることが課題である。

2 実践のねらい

健康教育教材の活用により、心と体を一体としてとらえ、健康・安全についての理解を通して、生涯にわたって健康の保持増進を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。

3 実施の内容と成果・課題

(1) 実践組織(校内体制)



(2) 実践内容

4～6年生の保健学習での活用

保健委員会活動での活用

保健だより等保護者・児童あて文書での参考資料としての活用

保健室を利用する児童への自由閲覧としての活用

(3) 成果

4～6各学年の保健学習の内容に沿った冊子を学習の前に配布し、まとめさせることにより、学習効果が高まった。一話毎の量が児童の発達段階に合っていたため、どの児童でもとりくむことができ、学習意欲が向上した。また、学習後の冊子を家庭でも活用してもらうことにより、家庭との連携も図れた。

保健委員会活動で資料として活用し、「手を洗おう」「熱中症を防ごう」「もっと健康になろう」「かぜ・インフルエンザを防ごう」のテーマで保健委員が自主広報活動を体験した。特に1年生対象の活動は参加した1年生にも効果的だった。

保健だより作成の際の資料として活用し、親しみやすい挿絵が好評だった。

休み時間等に保健室を利用する児童が閲覧し、健康に対する関心が深まった。

(4) 課題

今年度は4～6年生全員に必要な冊子を配布できたため、保健学習に取り組みやすかったが、来年度以降は全員分の冊子がないため、担任とより連携を深め、本校児童に必要且つ、より効果的な健康教育の方法を研究して行きたい。

4 実践のまとめ

保健の学習は年間、3・4年各4時間、5・6年各8時間の小单元なので、少ない時数でも充実した学習を行うためには、効果的な教材が必要である。そのためには、担任と児童の実態についてよく話し合い、指導要領に沿った学習計画を立て、学習した内容を「学校へ行こう週間」などを利用して家庭にも伝え、連携していくことが大切であると感じた。